



<取材のお願い>

2023年6月23日

山形大学

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

ベトナムの大学生が「誰一人取り残さない」精神文化と科学を学ぶ ～ SDGs を先取りした、山形庄内地方の好事例を世界へ ～

山形大学では、7月2日（日）～7月8日（土）、ベトナム国立農業大学から、大学生5名を招き、「誰一人取り残さない」をキーワードとした科学技術体験コースのプログラムを実施します。

「誰一人取り残さない」は、SDGs（持続可能な開発目標）の理念です。山形県庄内地域では江戸幕藩体制期から、クロマツ海岸防災林など、有力な地主や経営者が自らの事業に併せて「公益」を重視した取り組みが行われてきました。また、庄内地域は日本で初めて貧しい家庭の子女救済のために学校給食を始めた佐藤霊山、日本の孤児院・児童養護施設づくりを先導した五十嵐喜廣、盲人のための点字音譜を開発した佐藤國蔵、質素、清廉な姿勢で北海道開拓を進め、道民から敬愛された松本十郎などを生み、「誰一人取り残すまい」とした実践と、それを支える精神文化が確かに存在しています。

本プログラムでは、江戸期の豪商「本間家」などが私財を投じて整備したクロマツ海岸防災林の保全についての先端研究を講義、実習を通じて学ぶほか、公益活動を切り口とした地域ブランディングや、観光消費論の視点からみた意義などについて、ディスカッションを通じて理解を深めます。また、学校給食発祥の地、失業者救済を兼ねた土木事業の跡地など公益活動ゆかりの施設等での研修を行います。ベトナムの優秀な学生たちが「SDGs の理念の先取り」として実践されてきた取り組みへの理解を深めることにより、「山形」を研究のフィールドとして誇りをもって選択してもらえるようにすることが目的です。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、7月6日の行程において、ベトナムの大学生たちが本学研究室や各訪問先にて、本学学生らと交流し、議論を深める様子取材していただきたくお願い申し上げます。

なお、参加者をはじめ、実施担当の菅原靖 准教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】

- 山形大学キャンパスツアー（本学学生との意見交換）
- 講義
- 公益活動ゆかりの施設等における研修

【研修日程概要】

7月2日（日）	午後：入国、山形市に移動
7月3日（月）	午前：山形大学小白川キャンパスツアー 午後：ベトナム国立農業大学に訪問経験のある本学学生と意見交換 庄内地域へ移動
7月4日（火）	午前：学校給食発祥の地、致道博物館における研修 午後：講義「鶴岡の公益活動を学ぶ」（出羽庄内国際村）
7月5日（水）	午前：本間家旧宅、別邸における研修 午後：山形県庄内地域の地域ブランディングと精神文化（行政・関連団体訪問）
7月6日（木）	午前：講義「クロマツ海岸林の保全について」（山形大学 林田副学長） 野外実習 午後：山形大学鶴岡キャンパス研究室訪問、大学院生等との対話
7月7日（金）	午前：山形県村山地域へ移動（文化体験として羽黒山五重塔訪問） 午後：講義「観光消費と精神文化」（山形大学 菅原准教授）
7月8日（土）	午前：成田空港へ移動 午後：離日

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

山形大学

エンロールメント・マネジメント部国際交流課

（担当：島）

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

（担当：田中(禎)、太田）